

# 第13節 総合的な学習の時間

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）及び埼玉県小学校教育課程編成要領の趣旨及び内容を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- (2) 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示している。

### 2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 総合的な学習の時間における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「探究的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 3 総合的な学習の時間における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について
- 4 観点別学習状況の評価の観点について
- 5 評価の進め方について
- 6 情報に関する学習を行う際のプログラミング教育の必要性について

第3 単元の指導と評価の計画及び改善

- 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の視点
- 3 単元計画作成に当たっての基本的な考え方
- 4 単元の指導と評価の計画例

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 学習指導案の事例

### 3 本資料の活用にあたって配慮すること

- (1) 児童の主体性を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ること  
総合的な学習の時間における指導の基本は、児童の発想を大切に、主体的・創造的な学習活動を展開することである。これは、教師が積極的に関わらないということではなく、児童の取組が停滞していたり、迷ったりしている場面で、適切な指導をして変容していく姿を見守ることである。その際、学習過程を工夫したり、他者と協働して取り組む学習活動を意図的に取り入れたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点で不断の授業改善を図るようにする。
- (2) 評価に当たっては、各学校が設定する評価規準に照らして、児童一人一人の成長している点や育成された資質・能力を積極的に評価すること

総合的な学習の時間は、各学校において、自ら設定する目標や内容を適切に設定して評価する。評価に当たっては、評価方法や評価内容を工夫し、児童一人一人の成長している点や育成された資質・能力を積極的に評価する。また、児童の具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であることが重要である。

### 4 学力・学習状況調査の活用

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果から、総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童ほど各教科の正答率が高い傾向にあることが明らかになっている。そこで、総合的な学習の時間においては、比較する、分類する、関連付けるなどの「考えるための技法」（思考ツール等）を活用したり、意図的に理由や根拠を明確にして説明したりする場面などを取り入れるようにすることが肝要である。
- (2) 総合的な学習の時間においては、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら、教科等横断的に解決に向けて取り組んでいくようにする。また、学習の基盤となる問題発見・解決能力等を問題解決的な学習を通して確実に身に付けさせることが求められる。

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領（編P188）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点

## 第2 総合的な学習の時間における学習指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力は、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。

また、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については次の点に配慮する。

- (1) 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が、相互に関連付けられ社会の中で生きて働くものとして育成されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

### 2 「探究的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「探究的な見方・考え方」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に活用するとともに、広範な事象を多様な角度から捉え、実社会や実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方である。この「探究的な見方・考え方」を働かせるためには、以下の点に留意する。

- (1) 学習過程を探究的にすること

課題設定では、体験活動などを通して児童が自ら課題意識をもち連続発展できるようにする。情報の収集では、課題意識や設定した課題を基に追体験などを行い、課題の解決に必要な情報を収集する。整理・分析では、収集した情報を分類したり、細分化したりして因果関係を導き出し分析する。まとめ・表現では、情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする。こうした学習過程が繰り返し展開されることが大切である。

- (2) 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

多様な情報を活用して協働的に学ぶために、体験を通して得た情報を出し合い情報交換しながら考え話し合う。異なる視点から考え協働的に学ぶために、収集した情報を比較したり分類したり関係付けたりして考えていく。力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶために、友達と協力したり地域の人や専門家などと交流したりする。主体的かつ協働的に学ぶために、自らの学習活動を振り返りその価値を確認し合う。こうした学習活動を充実させることが大切である。

### 3 総合的な学習の時間における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

総合的な学習の時間においても、主体的に学習に取り組む態度の評価については、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価することが求められる。

この二つの側面は、総合的な学習の時間を含めた実際の教科等の学びの中では別々ではなく、相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。

### 4 観点別学習状況の評価の観点について

総合的な学習の時間においては、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特徴から、各学校が観点を設定するという枠組みが維持されているが、資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するため、評価の観点については、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を整理されている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

次に、各学校で定める内容のまとまりは、目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の二つによって構成される。(編 P189参照)

各学校においては、「内容のまとまりごとの評価規準」に沿って、単元の評価規準を作成しなければならない。作成の基本的な手順は、次のとおりである。

### ＜単元の評価規準の作成手順について＞

- (1) 各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。(A小学校の例)

A 小 学 校 の 目 標	探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習の時間を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。		
	(1) 地域の人、もの、ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

「評価の観点及びその趣旨」については、目標の文末(波線)を次のようにする。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	***理解している。	***身に付けている。	***参画しようとしている。

ポイントは、学校において定めた目標のうち、「知識・技能」の文末を「～について理解している。」「～を身に付けている。」などとする。同様に、「思考・判断・表現」の文末を「～している。」「主体的に学習に取り組む態度」の文末を「～しようとしている。」などとして設定することが考えられる。

- (2) 各学校において定めた内容の記述(探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」)が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

A小学校第4学年「地域の自然環境と環境問題に向き合う人々」は、次のようになっている。

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の自然環境と環境問題に向き合う人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について理解する。</li> <li>生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。</li> <li>地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心を基に課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。</li> <li>手段を選択して情報を収集することができる。</li> <li>課題解決に向けて、観点到合わせて情報を整理し考えることができる。</li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。</li> <li>自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。</li> <li>地域との関わりの中で、自分でできることを見つけようとする。</li> </ul>

- (3) 「観点ごとのポイント」を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

作成する際のポイントは、「知識・技能」では、前述の(2)に示した資質・能力を「知識・技能」では、文末を「理解している。」などとすることにより、評価規準を作成することが可能である。同様に、「思考・判断・表現」においても文末を「している。」「主体的に学習に取り組む態度」においても文末を「しようとしている。」などとする事が可能である。

- (4) 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

学習活動(探究の過程)や配当時間に応じて重点的に評価する場面を位置付けていく。また、複数の過程を対象とした評価規準が設定される場合もある。

A小学校第4学年の単元の目標及び評価規準は、次のようになっている。

単元の目標		
自分たちが生活している地域の自然環境の美しさを追究する活動を通して、自然の美しさや自然環境を守ろうとしている人々の思いに気付き、地域の一員として、自分たちにできることを考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境は、動植物が多く生息し、豊かな自然環境が維持されていることに気付いている。</li> <li>・地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について理解している。</li> <li>・地域に生息している生物や自然環境の保全に取り組んでいる人々を調査したり、収集した情報を基に図や文章でまとめたりする方法が分かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境について、地域への関わりを通して、感じたことを基に課題を設定し、解決の見通しをもって自分にできることを考えている。</li> <li>・課題を解決するために必要な自然環境や環境保全に関する情報について、手段を選択して収集している。</li> <li>・地域の自然環境や環境保全について、実際に観察したり、図鑑で調べたりした情報を基に、友達の考えと比較したり、グラフに整理して分析したりしている。</li> <li>・地域の自然環境や環境保全について調べたり、まとめたりしたことを相手や目的に応じた方法で表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向け、進んで地域の方に関わり、自然環境を守るために、自分にできることを考えている。</li> <li>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、友だちや地域の人と協働して学び合おうとしている。</li> <li>・課題解決の状況を振り返り、あきらめずに環境保全に向けて取り組もうとしている。</li> </ul>

※ 個人内評価の扱いについて

観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童が学習したことの意義や価値を実感できるように、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要である。特に「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要である。

## 5 評価の進め方について

観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、次のように進めることが考えられる。

### (1) 単元の目標及び評価規準を作成する。

学校において定める内容（「探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）をよりどころとして、中核となる学習活動をもとに、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確にして単元の目標及び評価規準を作成する。

### (2) 指導と評価の計画を作成する。

具体的な活動に沿って、評価場面や評価方法等を計画する。評価の資料（児童の反応や作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

### (3) 授業を行う。

(2)を踏まえて評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

### (4) 総括する。

活動や学習の過程、作品や成果物、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、児童のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて、評価結果を総括する。

## 6 情報に関する学習を行う際のプログラミング教育の必要性について

総合的な学習の時間は、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指している。したがって、情報に関する課題について探究的に学習する過程において、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、プログラミングを体験することだけにとどまらず、自分たちの暮らしとプログラミングとの関係を考え、プログラミングを体験しながらそのよさや課題に気付き、現在や将来の自分の生活や生き方とつなげて考えることができるようにすることが必要となる。

### 第3 単元の指導と評価の計画及び改善

#### 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

- (1) 単元の指導計画の作成に当たっては、年間や単元など、内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようとする。その際、児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習を行うなど、創意工夫を生かした教育活動の充実を図るよう留意する。
- (2) 単元の評価計画の作成に当たっては、各学校で定めた総合的な学習の時間の目標及び内容に基づいて、育成を目指す資質・能力が身に付いているのかを継続的に評価する。特に、総合的な学習の時間においては、学習内容や時間のまとまりを見通しながら評価場面や評価方法を工夫することに留意する。
- (3) 単元の指導計画の評価結果を基に、児童一人一人が、どのように成長しているか、資質・能力が確かに育成されているかどうかを捉え、児童のよい点や進捗の状況などを積極的に評価することにより、児童自身が学習したことの意義や価値を実感できるように改善を図る。

#### 2 総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の視点

- (1) 「主体的な学び」の視点  
「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。総合的な学習の時間において、探究的な学習を発展的に繰り返していく過程の中で、児童が主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要となる。
- (2) 「対話的な学び」の視点  
「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。探究的な学習の過程を質的に高めていくためには、異なる多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かうことが欠かせない。なお、「対話的な学び」は、学校内において他の児童と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所を ICT 機器などでつないで対話するなど、様々な対話の姿が考えられる。
- (3) 「深い学び」の視点  
「深い学び」については、探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。なお、総合的な学習の時間における探究的な学習の過程が充実することにより、各教科等で育成された資質・能力は繰り返し活用・発揮される。そのことによって、生きて働く知識及び技能として習得され、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等が育成され、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養につながるのである。

#### 3 単元計画作成に当たっての基本的な考え方

総合的な学習の時間の学習活動については、探究的な学習であることを重要な要件の一つとしている。したがって、総合的な学習の時間では、児童にとって意味のある課題の解決や学習のまとまりとなるように単元を計画することが重要である。このことを踏まえて、単元計画を作成するに当たっては、次の事項に留意する。

- (1) 児童の関心や疑問を生かした単元の構想をすること  
総合的な学習の時間では、児童の関心や疑問が単元の源であり、単元計画を作成する際の出発点でもある。そこで、児童の関心や疑問に対して、総合的な学習の時間において価値のある学習に結び付く見込みのあるものを、教師が教育的な意図で選択して取り上げるようにする。
- (2) 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成をすること  
児童の関心や疑問を源とする児童主体の活動の中で、いかに教師が意図する学習を効果的に生み出し、資質・能力を育成することができるかに留意する。単元を構成するに当たっては、学習の展開における児童の意識や活動の向かう方向を的確に予測するとともに、十分な教材研究を行うことが大切である。
- (3) 教師の指導性を発揮すること  
総合的な学習の時間では、いかに周到な単元計画を作成しても、教師が想定した以上の児童らしい発想や追究の姿が見られることがある。そこで、児童の探究の様子や意識の流れ等を常に捉え、当初作成した年間指導計画や単元計画を見直し、修正をしていくことも必要になる。また、児童が収集した情報を把握し、有効な思考ツールを用意して整理・分析するようにさせたり、板書等で考えを整理させたりするなど教師の指導性を発揮することが肝要である。

#### 4 単元の指導と評価の計画例

＜事例1＞ 「公園の特色や活用方法とその公園に関わる人々(公共施設の利用)」を探究課題とし、地域の公園のよさや課題を理解し、どのように公園と関わっていくのかを考えることをねらった事例 第3学年「別所沼公園に行こう」 指導要領との関わり：地域や学校の特色に応じた課題

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

児童が興味・関心をもつことができるように、身近な公共施設である公園を学習対象とする。公園を学習対象とすることで、探究的に繰り返し公園に関わることができるように設定する。また、探究的な学習の過程を充実することができるように、各教科等の学習を生かしたり、考える技法を活用したりする活動を意図的・計画的に単元の中に設定するように工夫する。

(2) 単元の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

単元のまとまりで評価するために、「関わった公園は、どんな公園であるか(概念形成)」について、定期的に考えるようにする。また、毎時間、ノートに振り返りを行い、「何を学んだか」「これから何をしていきたいのか」等、授業を通して分かったことやこれからの学習の見通しを書くように促していく。児童個人やクラスの学習状況を把握することで、指導の方向性を確認したり修正したりできるように工夫する。

○ 単元の見直し

地域の公園を調べたり、管理事務所の人や利用している人に取材したりする活動を通して、公園の特色や公園に関わる人々の思いに気づき、公園の役割や特色を生かした活用方法について考えとともに、学んだことを身近な人たちに伝えたり、自らの生活に生かそうとしたりする。

○ 単元の見直し

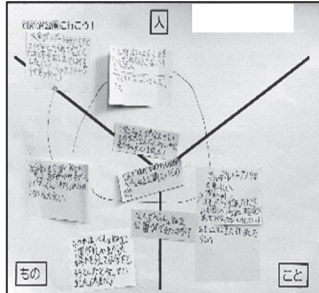
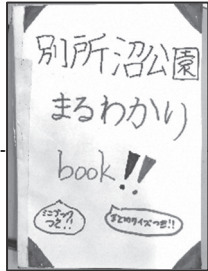
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の公園のよさや課題、公園に関わる人々の思いを理解している。 ② 課題を追究していく中で、地域の公園の特色や公園に関わる人々の思いについて自分なりに概念を構築している。 ③ 公園探検の計画を立てたり、インタビューやアンケート調査をしたりして収集した情報を図や文章でまとめる方法が分かっている。	① 地域の公園について、疑問や好奇心から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 公園の特色を知るために、手段を選択して情報を収集している。 ③ 公園の特色を明確にするために、収集した情報を観点ごとに関連付けたり、分類したり、公園を比較して共通点や相違点を見付けたりしながら自分の考えを整理・分析している。 ④ 身近な人々に地域の公園の特色を知ってもらえるように、自分の考えを工夫して表現している。	① 活動を通して、これからの公園の活用の仕方や関わり方を考え、自らの生活に生かしていこうとしている。 ② 友達との協働的な学習を通して、友達の考えを生かしながら公園の特色を調べたり、まとめたりしようとしている。 ③ 友達や公園に関わる人々に積極的に関わりながら、粘り強く公園の特色について調べようとしている。

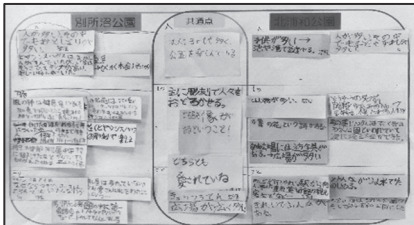
○ 単元の指導計画・評価計画

※ 「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
課題	○オリエンテーション(1) ・総合は、探究の過程が大切なんだね。 ○別所沼公園について、知っていることを話し合う。(2)	・総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ・どんな公園であるのか話し合うことで、別所沼公園の関心を高めるとともに、分からないことが多いことに気付くことができるようにする。
情報	○別所沼公園探検(2) ・別所沼公園はどんな公園かみんなで調べに行こう。	・話し合ったことを基に、疑問に感じたことを調査することができるようにする。
整理	○公園探検で集めた情報を整理する。(3)	・見付けたことを書いた付箋紙をグループで別所沼公園の地図(ワークシート)上に貼り出し、情報を可視化していく。
	情報の共有が図れるように、一つの地図に情報を蓄積し、掲示するように工夫する。	○ <b>見直し</b> ①・ <b>見直し</b> ②(発言、ノート) ○ <b>見直し</b> ③(発言、行動、ノート) ○ <b>見直し</b> ③(発言、ワークシート)

総合的な学習の時間

整理 表現	<p>○整理した情報を大きな地図上に貼り出し、全体で共有する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な物があるのは、分かったけど、なぜルールが張り紙が多いのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでまとめた情報を全体で共有することで、新たな疑問や次の活動の見直しをもつことができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>思・判・表</u>③・<u>態</u>② (発言、ワークシート、ノート)</p>
課題	<p>○別所沼公園についてもっと調べてみたいことを考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上にまとめられた情報を基に、次の公園探検の計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことや情報をまとめた地図を基に、次の探検の計画を立てることができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>思・判・表</u>①・<u>態</u>② (発言・ノート)</p>
P284 指導計画作成の留意事項(3)		
情報	<p>○別所沼公園探検2(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅像がたくさんある理由を知りたいから公園事務所に行ってみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し公園探検ができるように、十分に時間を確保できるようにする。</li> <li>・話し合ったことを基に、公園探検が行えるように促していく。</li> </ul> <p>○<u>知・技</u>③・<u>思・判・表</u>② (行動、ノート)</p>
国語科の学習を生かし、適切にインタビューをすることができるように指導する。		
整理	<p>○公園探検で集めた情報を整理する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つにまとめてみると公園に関する「人」のことを調べていないな。</li> </ul> <p>思考・判断・表現③の「公園の特色を明確にするために、収集した情報を観点ごとに関連付けたり」となっている姿を「Yチャートを使い情報を関連付けたり、分類したりして新たな疑問を生み出している」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Yチャートを活用し、「人」「もの」「こと」の三つの観点で情報を整理することで、観点ごとの情報を関連付けたり、新たな疑問に気付いたりすることができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>思・判・表</u>③ (発言、行動、ワークシート)</p>
		
整理 表現	<p>○整理したことをカードにまとめ、友達と交流し、別所沼公園はどんな公園であるか考える。(4)</p> <p>児童の概念形成が図れるように、児童同士が協働的に「別所沼公園は、どんな公園であるのか」について考えることができる場を意図的・計画的に設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードは地図上に貼り出したり、話し合いの中で活用したりすることができるようにする。</li> <li>・イラストなどを入れながら友達に分かりやすく伝えることができるように促す。</li> <li>・カードを別所沼公園の地図上に貼り出し、情報を可視化していく。</li> </ul> <p>○<u>知・技</u>①・<u>思・判・表</u>③・<u>態</u>② (発言、行動、カード)</p>
別所沼公園はみんなが楽しめる工夫がたくさんあるからみんなの思いがこもった公園だと思うな。		
規	<p>○別所沼公園のことをまとめよう(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、別所沼公園のよさを本にまとめて家族に伝えたいな。</li> </ul> <p>知識・技能②では、「地域の公園の特色や公園に関わる人々の思いについて自分なりに概念を構築している」となっている姿を「公園のよさや公園に関わる人の思いについて、発言したり、別所沼公園ブックやノートでの振り返りの中で表現したりすることができる」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が調べてきたことや別所沼公園の地図を基にまとめることができるようにする。</li> <li>・表現方法の特色について話し合い、自分なりの方法でまとめることができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>知・技</u>②・<u>思・判・表</u>④ (発言、作品、ノート)</p>
		
課題	<p>○他の公園と別所沼公園を比べる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別所沼公園以外の公園は、どうなっているのか調べてみたいな。</li> <li>・別所沼公園とは違うよさがありそうだよね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の公園のことについて話し合い、他の公園について興味・関心をもてるようにする。</li> <li>・児童の振り返りやつぶやきを基に、課題を設定することができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>思・判・表</u>①・<u>態</u>② (行動、ノート)</p>
情報	<p>○他の公園を探検する。(1 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別所沼公園と他の公園には、どんな違いがあるのかな。</li> </ul> <p>主体的に学習に取り組む態度③では、「友達や公園に関わる人々に積極的に関わりながら粘り強く公園の特色について調べようとしている」となっている姿を「地域の人に積極的に関わり活動している様子や別所沼公園と比較し、共通点や相違点を見付けようとしている」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み中も他の公園を訪れ情報を収集することができるように、家庭学習に位置付ける。</li> <li>・繰り返し公園探検ができるように十分に時間を確保できるようにする。</li> <li>・どんなところを見るのか考えを共有し、別所沼公園と比較することができるようにする。</li> </ul> <p>○<u>知・技</u>③・<u>思・判・表</u>② <u>態</u>③ (行動、ノート)</p>
整理	<p>○探検した公園について情報を整理する。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙やカードを使い、情報を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙やカードに整理することで、情報を可視化し、友達と交流できるようにする。</li> </ul> <p>○<u>思・判・表</u>③・<u>態</u>② (発言、ワークシート、ノート)</p>

整理	○他の公園と別所沼公園を比較し、共通点や相違点を見付ける。(3) ・比べてみると、似ているところと違うところが結構あるな。	・ベン図を活用し、別所沼公園と他の公園を比較することで、共通点や相違点を見付け、それぞれの公園のよさや課題に気付くことができるようにする。 ○ <b>思考表</b> ③ (発言、ワークシート、ノート)	
思考ツールを活用し、児童の考えを比較したり、分類したり、関連付けたりすることができるように工夫する。 P284 指導計画作成の留意事項(2)		・クラゲチャートを活用し、整理した情報を関連付けながらそれぞれの公園がどんな公園なのか考えることができるようにする。 ○ <b>知・技</b> ①・ <b>思考表</b> ③ (発言、ワークシート、ノート)	
整理 規	○話し合ったことを基に、それぞれの公園のよさや課題について考える。(3) ・北浦和公園は、別所沼公園よりもベンチの数が多いから読書や休憩に来る人が多いのかもしれないな。	・相手意識や目的意識を明確にするために、伝える対象は誰なのか、何のために紹介するのか話し合うようにする。 ・伝えたい公園を選び、まとめていく。 ○ <b>思考表</b> ①・ <b>態</b> ① (発言・ノート)	
課題	○地域の公園のよさや課題をいろいろな人に伝えよう。(2) ・それぞれの公園のよさや課題を知ってもらいたいな。 ・公園の特色が分かって使うと前よりも楽しく利用できるね。	・探検の計画は、対象や目的に合わせて探検することができるように促していく。 ・計画したことを基に、探検を行う。 ○ <b>思考表</b> ②・ <b>態</b> ③ (発言・行動・ノート)	
情報	○伝えたい公園を探検し、情報を収集する。(2) ・公園をどのように利用してほしいのか管理事務所の人たちにもう一度聞いてみたいな。	・ピラミッドチャートを活用し、どんなことを紹介するのか取捨選択することができるようにする。 ○ <b>知・技</b> ①・ <b>思考表</b> ③ (発言、ワークシート)	
整理	○収集した情報を基に、自分達の紹介する公園のよさや課題を整理する。(2) ・僕は、公園をきれいに使ってほしいから別所沼公園の使い方やルールについてまとめていきたいな。	・表現方法の特性について話し合い、伝える対象や目的に合った表現方法選択することができるようにする。 ○ <b>知・技</b> ② <b>思考表</b> ④ (発言、行動、カード)	
規	○本やチラシ等の表現方法を選択し、まとめたものを基に紹介する。(7)		
思考・判断・表現④では、「身近な人々に地域の公園の特色を知ってもらえるように、自分の考えを工夫して表現している」となっている姿を「家族や学校の人々に分かりやすく伝えられるように、表現方法を工夫したり、自分の公園に対する思いや考えを工夫して表現したりしてまとめている」という具体的な姿に捉え直して評価する。			
規	○これまでの学習を振り返る。(2)	・掲示物や写真等を基に、1年間の学習を振り返ることができるようにする。 ・学習したことをこれからの生活にどのように生かしていきたいかを考えていく。 ○ <b>知・技</b> ②・ <b>態</b> ① (発言、ノート)	
	学習をこれからの生活にどのように生かしていけるのかを考えることができるように、掲示物や写真を使いながら振り返るように工夫する。		

### (3) 評価に基づく改善のポイント

総合的な学習の時間は、児童が主体性を発揮しながら活動することが望まれる。そのため、児童の探究の様子や意識の流れなどを常に捉えていく必要がある。毎時間の振り返りや児童の考えを可視化したワークシートや板書を基に、単元を見直し、修正していくことで学習活動が充実したものになるようにしていく。また、児童の主体性を大切にするだけでなく、教師の適切な指導も大切にする必要がある。教師が明確な考えをもち、期待する学習の方向性や望ましい変容を想定することで、体験活動の仕組みや話し合いの仕方、考えの整理の仕方など学習の状況に応じた適切な指導ができるようになる。教師の適切な指導と児童の主体性のバランスを保ちながら、それぞれを適切に位置付けていくことができるようにしていく。



＜事例 2＞ 「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」を探究課題とし、古くから伝わるもののよさを感じ取り、他の国や地域の人々に誇れる文化・伝統・風習を大切にしていこうとする態度を身に付けることをねらった事例  
第5学年「私たちの町の伝統文化～つなごう未来へ～」 指導要領との関わり：地域や学校の特徴に応じた課題

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

日本に伝わる伝統的な行事や伝承についての資料を提示することで、自分の住む地域における祭りや伝承に親しみ、地域の一員である自覚と誇りをもてるようにする。また、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を繰り返すことで、探究的な学習過程の充実が図れるように工夫する。

(2) 単元の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

単元のまとまりで評価をするために、「私たちの地域のよさや伝統」について、定期的に記述させるようにする。また、毎時間振り返りカードに「進んで活動できたか（主体性）」「次の時間に何をやるか（学習の見通し）」等を必ず記入し、児童個人やクラスの学習状況を把握することで、指導の方向性を確認したり修正したりできるように工夫する。

○ 単元の目標

地域に伝わる祭りの文化について調べたり、昔から続いているお店や職人さんに取材したりする活動を通して、昔から変わらず続いてきたもののよさに気づき、伝統とはどのようなことかについて考えるとともに、地域の文化、伝統の良さを受け継いで、日本人としての誇りをもち、よりよい生き方をしようとする。

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 昔から伝わる地域の伝統や文化について、それに関わる人たちの思いに気付いている。 ② 地域に伝わる祭りやお店など、昔から変わらず続いてきたものの良さを理解している。 ③ 地域の祭りを調べたり、お店などを取材したりして得た情報を図や文章でまとめる方法が分かっている。	① 伝えたい日本の文化について、地域に伝わる祭りやお店などから課題を決め、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 地域に伝わる伝統文化について必要な情報を、目的に応じて選択して収集している。 ③ 地域に伝わる伝統や文化を知るために得た情報を選択したり、比較したり、関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 身近な人や地域の人々に、自分が考える伝統文化について考えをまとめ、伝わるように工夫して表現している。	① 地域の文化、伝統の良さを受け継いで、日本人として誇りをもち、よりよい生き方をしていこうとする気持ちをもとうとしている。 ② 友達や地域の人々に積極的に関わりながら、自分たちの地域の伝統について調べようとしている。 ③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに最後まで自分が考える伝統文化について取り組もうとしている。

○ 単元の指導計画・評価計画

※ 「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・ 児童の思考	・ 指導上の留意点 ○評価（評価方法）
課題	○オリエンテーション ・単元のねらい、内容や計画を確認する。 ○私たちの小学校にも伝統があるか考える。 ・鼓笛隊があるよ。 ○鼓笛隊について知っていることを話し合う。 ・お父さん、お母さん、校長先生もしていたと聞いたよ。 ・地域にも昔から伝わる伝統はあるのかな。	・単元の流れについて、資料を基に説明する。 ・単元を通して振り返りカードに記入し、学習の軌跡を残す。 ・自分が通う小学校にはどんな伝統があるか考えるようにする。 ・自分たちと関わりのあることについて調べ、伝統について興味をもてるようにする。
課題 情報 整理 表現	○地域に伝わる伝統について考える。 ・祭りは色々な場所で毎年やっているよ。 ・どんなお祭りがあるのかな。 ○地域に伝わる祭りについて調べる。 ・おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてみよう。 様々な地域で祭りがあることに気付かせる工夫をする。 ○祭りについて調べたことを整理する。 ・言葉や絵、写真を使って整理する。 ○調べた祭りについて共有する。 ・夏祭り、どろいんきよ、ささら獅子舞、祭り囃子など。 ・地区によって伝わる祭りがあるんだね。	・学校だけでなく地域にも目を向けられるようにする。 ・児童にとって身近な祭りについて考えるようにする。 ・どんな方法で調べたらいいか、考えを出し合うようにする。 ○思・判・表②（学習カード） ・グループごとに祭りがある場所に付箋を貼り、地図で確認できるようにする。 ・クラス全体で共有して、いろいろな場所に昔から伝わる伝統的な行事があることに気付くようにし、次の活動の見通しをもてるようにする。 ○知・技①（行動、学習カード）
知識・技能①の姿をそれぞれの地域に伝わる伝統的な祭りに気付いている姿で評価する。		

課題 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の祭りについて、もっと調べたいことを考える。</li> <li>・お祭りは、いつごろから始まったのかな。</li> <li>○興味をもった祭りについて調べる。</li> <li>・お祭りを見に行ってみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に思ったことなどを基に、次の課題を立てられるようにする。</li> <li>・インターネットだけで調べるのではなく、身近な人に聞いたり、祭りを見に行ったりする計画も立てられるようにする。</li> </ul>
<p>お祭りの体験や見学ができるように、家庭と連携を図り、協力が得られるようにする。そして、地域のお祭りに参加したり、話を聞いたりして、地域の人と積極的に関わられるように計画を立てる。また、地域の郷土資料館などと連携することも考えられる（博学連携）。</p>		
整理 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べた祭りについて整理する。</li> <li>・調べた祭りについてみんなに知ってもらいたい。</li> <li>○調べた祭りを共有し祭りに込められた願いを考える。</li> <li>・それぞれの祭りに昔の人の願いが込められているんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのまとめ方を考えることができるようにする。</li> <li>○<b>思・判・表</b>③（学習カード）</li> <li>・どの祭りにも願いが込められており、昔から受け継がれていることに気付けるようにする。</li> <li>○<b>態</b>①（学習カード）</li> </ul>
<p>祭りを通して伝統について考え、クラスで話し合えるようにする。</p> <p>主体的に学習の取り組む態度①の姿については、祭りが昔から受け継がれていることが分かるような発表や学習カードに記している児童を評価する。</p>		
課題 情報 整理 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統とは何か考える。</li> <li>・昔から大切にしてきたことを守り続けていくことだと思う。</li> <li>○お祭り以外の地域の伝統について考える。</li> <li>・学校の近くの和菓子屋さんや豆腐屋さんは昔からあるよ。</li> <li>・豆腐屋さんで話を聞いてみたい。</li> <li>・伝統を守り続けている人の話を聞きたい。</li> <li>○地域に伝わるお店や職人さん取材する。</li> <li>○取材したお店について整理する。</li> <li>・伝統を守るって大変なんだ。</li> <li>・お豆腐を作ってみよう。</li> <li>○整理した情報についてクラスで共有する。</li> <li>・お店の人は、昔から続いているお店を大切にしているね。</li> <li>・お店の人の思いが込められているんだ。</li> <li>○改めて伝統とは何か考える。</li> <li>・伝統を守り続けるだけでなく、これからの時代に受け継がれていくことが大事だと分かった。</li> <li>・取材したことをまとめて、お店の人に聞いてもらいたい。</li> <li>○お世話になったお店の人たちを招いて発表会を行う。</li> <li>・取材で学んだことを聞いてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた祭りを基に、伝統とは何かクラスで考えられるようにする。</li> <li>・祭り以外のことにも目を向けられるように地域のお店や職人さんについて問いかける。</li> <li>○<b>思・判・表</b>①（学習カード）</li> <li>・地域の伝統文化について興味をもつことができるようにする。</li> <li>○<b>態</b>②（行動、学習カード）</li> <li>・今でもお店や物づくりが地域に伝えられていることに気付くようにする。</li> <li>○<b>知・技</b>③（行動、学習カード）</li> <li>・社会科で学んだ先人たちの知恵を今でも生かしていることを想起し、身近にも伝統を守り続けている人がいることに気付けるようにする。</li> <li>○<b>知・技</b>②（行動、学習カード）</li> <li>・共有したことを基に、クラス全体で伝統とは何か考える。</li> <li>・自分たちが思っていた伝統と取材して分かったことを比較させながら考えられるようにする。</li> <li>・グループごとに自分たちなりの発表の方法を考えるようにする。</li> <li>・取材でお世話になった人に取材で学んだことだけでなく、自分たちの伝統に対する考えや思いを伝えられるようにする。</li> <li>○<b>思・判・表</b>④（発表）</li> </ul>
<p>取材に協力していただいた感謝の気持ちをもつとともに、地域の人と積極的に関わることが、伝統を受け継ぐための手段の一つになると考える。</p>		
<p>思考・判断・表現④の姿については、自分たちの思いが伝わるようにまとめたり、発表したりしている姿を評価する。</p>		
整理 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が考える伝統について作文を書き、学年や学級で読み合う。</li> <li>・私も伝統を受け継ぐ一人になりたい。</li> </ul>	<p>P284 指導計画作成の留意事項(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、伝統についての考えや思いを作文に書き、学年や学級で読み合い交流する。</li> <li>・学習したことをどう生かしていくか考える。</li> <li>○<b>態</b>③（行動、学習カード）</li> </ul>

### (3) 評価に基づく改善のポイント

総合的な学習の時間の評価については、具体的な児童の姿を見取るに相応しい評価規準を設定し、評価方法や評価場面を適切に位置付けることが欠かせない。そこで、具体的な学習状況の評価方法について、振り返りなどによる自己評価の他に教師や地域の人々による他者評価など多面的に評価できる場面を設定する。

また、学習状況の結果だけでなく、学習前の実態、活動中や活動の終末の学習状況の把握と授業の改善を通して、児童の学習状況の過程を評価できるようにしていく。そして、教師は、児童一人一人の学びや成長の様子を的確に捉えられるようにする。

## 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

### 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

(1) 本時の学習指導に当たっては、「児童の主体性の重視」「適切な指導の在り方」「具体的で発展的な教材」の三つの考え方を基本としておさえる。まず、教師は、学び手としての児童の有能さを引き出し、児童の発想を大切に学習活動を展開する。そして、探究課題に対する考えを深め、資質・能力につながる探究的な学習となるようにする。さらに、身近にある具体的で発展的な教材を用意する。

(2) 探究的な学習過程にするためには、次の点に留意する。

「課題の設定」では、学年が上がり、児童の探究的な学習への習熟が高まるにつれて、問題状況を単純なものからより複雑なものへとしたり、解決の手順等について教師があらかじめ示すことを段々と少なくし、児童自身が見通しや仮説を立てることに比重を移したりして、質を高めていくことが考えられる。

「情報の収集」では、多様な方法からより効率的・効果的な手段を選択できるようにする。例えば、比較ができるように調べる項目をそろえたり、数値化できるようにしたりすることが考えられる。

「整理・分析」では、より深く分析し、より確かな根拠付けが行われるよう質を高めていくことが考えられる。そのためには、児童が収集した情報を可視化することや根拠に基づいた話し合いになるようにする。また、情報の整理・分析を意識的に行うために、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けして考える、願いや結果に着目して考えるなどの「考えるための技法」（思考ツール等）を効果的に活用することも大切である。

「まとめ・表現」では、相手や目的に応じてより分かりやすく伝わるように、より論理的で効果的な表現を工夫したり、学習を振り返る中で、より物事や自分自身に関して深い気付きとなるよう内省的な考え方が深まるようにしたりしていくことが考えられる。

そして、探究的な学習の過程の中で、それぞれの児童が、多様な情報を活用したり、異なる視点から考えたり、力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ場面を意図的に取り入れていくようにする。

(3) 本時の評価計画の作成に当たっては、他教科等と同様に、本時の目標に即して具体的な児童の姿として描き出し、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握できるようにすることが大切である。その際、具体的な児童の姿を見取るに相応しい評価規準を設定し、評価方法や評価場面を適切に位置付ける。

(4) 主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動を展開する。総合的な学習の時間においては、相互に考え、話し合い、学び合う活動や地域の人々との意見交換や交流活動など、他者と協働して問題解決したり、言語により分析し、まとめたりするなどの学習活動や、各教科等との関連を意識した学習活動を行うことが重要である。特に、導入の課題設定の場面で見通しやゴールのイメージをもつこと、整理・分析場面で「考えるための技法」（思考ツール等）による相互作用を行うこと、さらに文字言語を中心とした振り返りにより自己変容を自覚し次に生かすことなど、主体的・対話的で深い学びを実現するために探究のプロセスを一層重視する。

(5) カリキュラム・マネジメントの視点から評価する。（小学校教育課程編成要領 P 5 参照）日々の授業等についても教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む必要がある。

さらに、教科等横断的な視点で内容等を組み立てていくこと、学習の実施状況を評価し、その改善を図ること、実施に必要な人的、物的な体制の確保という三つの側面に留意しながら教育課程を評価していくようにする。

このような教育課程の評価をするにあたり、同僚教師間での情報交換や、全校体制での組織的な取組を進めることが重要である。

(6) 「社会に開かれた教育課程」の視点で学習指導を改善し、活動の充実を図る。「社会に開かれた教育課程」とは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしなが、社会と連携・協働により、学校教育の実現を図ることを目指すものである。本時の学習においては、「社会に開かれた教育課程」の視点で学習指導を改善し、学習活動の充実を図るとともに、自校と社会とのつながりを考えた教育課程を編成、実施し、評価、改善に努めていく。

## 2 学習指導案の事例

＜事例1＞ 「身の回りの高齢者や障がいのある人々とその暮らしを支援する人々」を探究課題とし、地域を取り巻く福祉に関わる様々な社会的事象に対し、地域の一員として自分達にできることを考え実践することをねらった事例  
第4学年 「手と手をつないで～みんなにやさしいまちづくり～」 指導要領との関わり：横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）

(1) 本時の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等  
交流会をよりよくするために、問題点を解決するにはどうしたらよいか、前時までの児童一人一人の気付きや考えを一覧表にまとめ、それを基にすべての児童が話し合いに参加できるようにした。

(2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等  
児童一人一人の思考を可視化し、見取りやすくするために、ワークシートやホワイトボードを用いて思考ツールを活用したり、付箋を使ったりして、評価できるようにした。

1 単元名 「手と手をつないで～みんなにやさしいまちづくり～」(第4学年 70時間)

### 2 単元目標

地域の高齢者や障がいのある人々との共生を課題に、繰り返し関わる活動を通して、高齢者や障がいのある人を支える取組、工夫や努力、人々の思いに気付き、「みんなにやさしいまち(すべての人が互いを大切にできる地域)」について考えるとともに、「自分にできることは何か」の視点をもって学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

### 3 児童の実態(省略)

### 4 教材について

本校は、3世代以上の家庭が比較的多い農村地域と新興住宅が混在する地域にあり、約3人に1人が高齢者という実態がある。また、本校には、特別支援学級(知的、肢体不自由)があり、近くの特別支援学校と交流をしている。本学級も1年生のときから毎年交流を続けている。さらに、正門から徒歩3分の所に高齢者介護施設もある。

そこで、高齢者や障がいのある人々、暮らしを支援する人々との交流を通して、「みんなにやさしいまち」について考えるとともに、このまちに愛着をもち、大切にしていこうとする態度を養い、自らの生活や行動に生かすことをねらって設定した。

交流の対象(ひと、もの、こと)は、身近で何度も繰り返し関わるができるものにした。そうすることで、課題を自分事として捉え、その解決に向けて本気で取り組むことが期待できると考えたからである。

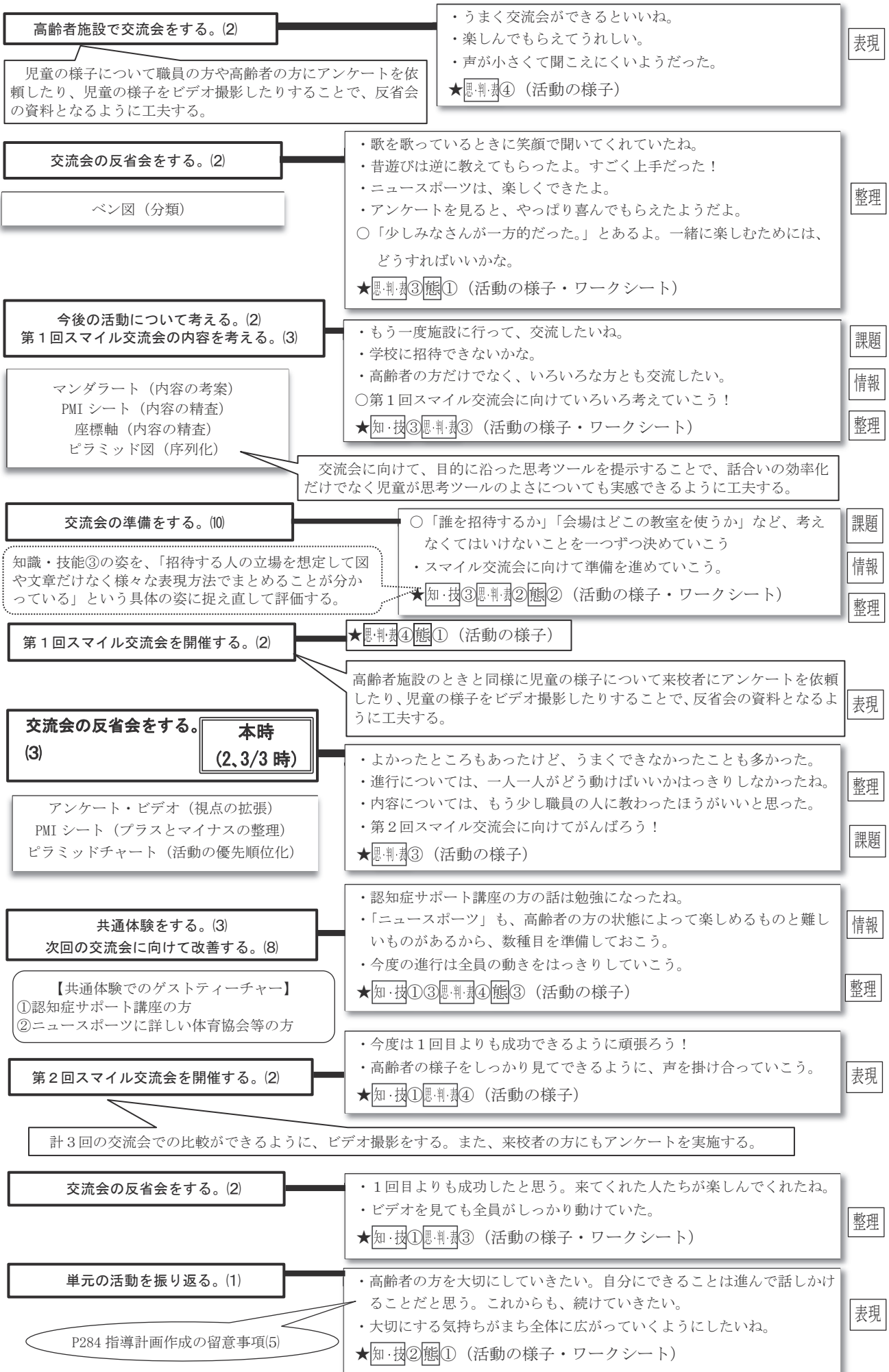
また、「みんなにやさしいまちとは」「福祉とは」の概念形成の過程を見取る記述を定期的に行わせ、児童一人一人の学びの深まりを記録として残していくようにした。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 高齢者や障がいのある人々の暮らしを支援する取組や人々の思いや工夫・努力を基に、「やさしいまちづくり」をするためには、互いを思いやり、支え合うための工夫や努力を続けることの大切さを理解している。</p> <p>② 地域の特徴を知り、高齢者や障がいのある人々との支え合い・関わり合いを通して、自分の生活に深く関わっていることを理解している。</p> <p>③ 「やさしいまちづくり」のための取組を行ったり、高齢者や障がいのある人々について調査や体験活動をしたりして、収集した情報を図や文章でまとめる方法が分かっている。</p>	<p>① 高齢者や障がいのある人々について、地域への関わりや理想と現実の隔たりから感じたことをもとに、課題をつくり、課題解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② 高齢者や障がいのある人々とよりよい関わり合いをするために、必要な手段を選択して情報を収集している。</p> <p>③ 「やさしいまちづくり」のために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④ 相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で、分かりやすく表現している。</p>	<p>① 活動を通して、自分と身の回りの高齢者や障がいのある人々との関わりを見直そうとしている。</p> <p>② 高齢者や障がいのある人々と、支え合い関わり合う体験を通して、得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者や障がいのある人々とよりよい関わり合いに向けて取り組もうとしている。</p>

## 6 単元の指導計画と評価計画 (70時間)

学習活動(時数)	内容	思考ツール	・児童の思考 ○教師の主な発問 ★評価(評価方法)	過程
「福祉」に対するみんなの考えと各種データを整理・分析する。(4)	【事前アンケート】 Q「福祉」という言葉を知っているか。 Q「障がい」といって思い浮かべるものは？ Q「高齢者」といって思い浮かべるものは？		<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉ってよく分からない。でも、無くてはならないもの。</li> <li>障がいのある人や高齢者をかわいそうな人だと思っている人が多い。</li> <li>50年前と比べて、高齢者の数が2倍になっている。</li> <li>子供の数は1/3まで減っているよ。</li> <li>このまちは、三人に一人が高齢者になっている。きっと、数年後には、二人に一人が高齢者だね。</li> <li>実際にそんなに高齢者や障がいのある人って多いのかな。</li> <li>このまま人口が減り続けたら、人がいなくなってしまう。</li> <li>私達が住んでいるまちはどうなっているのだろう・・・</li> </ul>	情報
	【各種データ(グラフ化したもの)】 データ①埼玉県とまちの年齢別の人口の推移 データ②本校とまちの学校の児童数の推移		<ul style="list-style-type: none"> <li>★<b>思・判・表</b>③<b>態</b>①(話し合いの様子・ワークシート)</li> </ul>	整理
	グラフ(アンケートの整理) ウェビングマップ(思考の拡張) ランキング(アンケート回答数の序列化)		<p>思考・判断・表現③の姿を、「学級全員のアンケートや提示した各種データの関連性を分析し、未来の人口分布についての予想を立てている」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	
自分たちのまちの状況について調査する。(4)	【調査の視点】 ①この地域には、どんな人が住んでいるか。 ②本当に高齢者が多いのだろうか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者介護施設が2件あった。手を振ってくれた人は車椅子だった。</li> <li>デイサービス〇〇と書かれた車が何台も通った。</li> <li>テニスコートで、おじいさん達が元気に走り回っていた。</li> <li>そうか。見守りボランティアのAさんも高齢者だ。</li> <li>障がいのある人って、まちの中では分からなかった。</li> </ul>	課題
	調査後に情報を整理・分析しやすいように、各自が調査する項目を揃えるようにする。また、気付いたことを随時メモするようにするなど、気付きも大切にす。		<ul style="list-style-type: none"> <li>★<b>思・判・表</b>②(活動の様子・振り返りカード)</li> </ul>	情報
調査結果を整理・分析する。(3)	KJ法・ベン図(分類)		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちの中には、高齢者がたくさんいる。</li> <li>高齢者には、元気な人もいるが、元気でない人もいる。</li> <li>〇私達にとっては暮らしやすいまちだけど、他の人達にとって暮らしやすいまちと言えるのだろうか。</li> </ul>	整理
2回目の地域調査をする。(4) 調査結果を整理・分析する。(4)	【調査の視点】 ①高齢者や障がいのある人たちが暮らしやすいと思われる工夫や場所 ②逆に不便や大変ではないかと思われる場所		<ul style="list-style-type: none"> <li>★<b>思・判・表</b>③<b>態</b>②(話し合いの様子・ワークシート)</li> </ul>	課題
地図化【空間軸での把握】 ベン図(分類)	P284 指導計画作成の留意事項(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>〇「もの」だけでなく、「ひと」「こと」にも着目して調査すべきでは？</li> <li>地図にチェックしながら調査しよう。できれば、インタビューもしたいね。</li> <li>歩行者信号は音楽も流れるし、ゆっくり歩いても渡れる長さだった。</li> <li>結構不便な場所が多い気がする。段差がある所も多いよ。</li> <li>「ひと」「こと」は見えづらからなかなか見つからなかったよ。</li> <li>〇実際に高齢者の方や障がいのある人たちはどう思っているのだろうか…</li> </ul>	情報
	P284 指導計画作成の留意事項(2)		<p>思考・判断・表現②の姿を、「ひと」「もの」「こと」の視点をもって、地図上に整理しながら情報を収集している」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	整理
高齢者施設の職員の方に話を聞く。(3)	施設の職員に、児童がまとめた地図は、高齢者に立った視点が不足していることを指摘していただく。また、高齢者施設への訪問についてお誘いしていただき、交流会を行う活動へと進めていけるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>僕たちが見付けた工夫や課題は合っているところもあったけど、足りないところもたくさんあると話していたね。</li> <li>もっと高齢者の方が何を考えているか、どうしているかなど知らないとだめなのかもしれないね。</li> <li>施設の方が「みんなで来ませんか？」と言ってくれた。ぜひ行きたい。</li> <li>〇施設の方の「高齢者を楽しませてね。」という願いをお聞きしたので、みんなで企画を考えよう。</li> </ul>	情報
			<ul style="list-style-type: none"> <li>★<b>思・判・表</b>①<b>態</b>①(活動の様子・ワークシート)</li> </ul>	整理
交流会の準備をする。(8)	P284 指導計画作成の留意事項(4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで楽しませることができることと、グループになって楽しんでもらえることを分けて考えよう。</li> <li>歌を歌ったり、運動をしたり、昔遊びをしたりするのがいいかな…</li> <li>運動といえば、「ニュースポーツ」という、誰でも手軽にできる運動があるって、ニュースで見たよ。</li> <li>始めの会や終わりの会など、しっかりとリハーサルしてから行こう。</li> </ul>	課題
			<ul style="list-style-type: none"> <li>★<b>思・判・表</b>②<b>態</b>③(活動の様子・ワークシート)</li> </ul>	情報
				整理



7 本時の学習指導（本時53、54／70時）

(1) 目標

第二回の交流会に向けて、観点に合わせて情報を整理・分析する活動を通して、自分と友達の考えを比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価）	準備	時間
1 前時を一覧表を基に確認する。  振り返りを一覧表にすることで、全児童の学びを捉え直すことができる。共通点や相違点等、共感できる場所にラインを引き、自分の考えに加え、友達の考えも発表し合う。特別な配慮を必要とする児童には、一緒に話を聞きながら、自分の考えがもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りを一覧表に表し、読み合いながら児童一人一人が現時点での考えを再認識する。</li> <li>・ICTを活用し、第一回の交流会の様子が分かる写真や、高齢者や支援員さん、参加者のアンケートや手紙を拡大した掲示物を用いて、具体的に確認するようにする。 P284 指導計画作成の留意事項(1)</li> <li>・隣の席の児童に自分の考えを伝え、よい点を称賛し合い、発言に自信がもてるようにする。</li> <li>・目的意識（やさしいまちづくり）、相手意識（高齢者介護施設の利用者の方）、方法意識（笑顔になれる遊び）を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童の振り返り一覧表</li> <li>・前時でまとめた第一回の交流会のPMIシート</li> <li>・もらったアンケート</li> </ul>	5
2 本時のめあてを確認する。			2
第2回スマイル交流会に向けて、もっとみんなが笑顔になるためにどうしたらよいか考えよう。			
3 本時の課題解決のための見通し（学びの過程とゴール）と活動内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の見通しとして、みんなが笑顔になるために①やるべき活動を明確にする。②活動の優先順位を付けるようにする。</li> <li>・考えるための技法を活用し、課題解決できるようピラミッドチャート（活動の優先順位、序列化）を用いることで、児童一人一人の考えの可視化・操作化により、思考の過程が残り、課題解決への道筋が見やすくなり、話し合いが活性化することをねらいとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備（ホワイトボード、ワークシート、付箋3色、マジックペン）</li> </ul>	2
4 グループで話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの話し合いの中で、①友達への反応を大切に（認め合い）、②質問を大切に（深め合い）③新しい考えをつくる（創造する）ことを意識するようにする。意見を捨てていくようにならないように助言する。</li> </ul>		15
5 話し合いの結果を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のワークシート、ホワイトボードに加えて、キーワードや課題と関連することを、分かりやすく構造的に板書をする。</li> <li>・やるべきこととその理由、感想（悩んだことやたくさん話し合ったこと等）を発表し、全体で内容を協議する。</li> </ul>		6
6 全体でこれからについて協議する。  単元の評価規準に「観点に合わせて情報を…」という内容に加え、より具体的な活動に捉え直して評価するようにした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で話し合いを共有することで、さらに比較、関係付けが深まり、「みんなにやさしい」とはどういうことか考えを深められるようにする。</li> <li>○交流会に向けて、観点に合わせて情報を整理・分析し、自分と友達の考えを比較したり、関係付けたりしながら解決に向けて考えている。（発言、行動、振り返りカード）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカード</li> </ul>	10
7 本時のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの捉え直しをする。①学習内容②関係付けや一般化③自己変容の自覚について記述できるように促す。</li> <li>・意図的に指名し、発表をすることで、学びを共有するようにする。</li> </ul>		5

## 8 板書計画

みんなにやさしい遊びをつくろう ～自分も笑顔 相手も笑顔 みんなも笑顔～

めあて 第2回スマイル交流会に向けて、もっとみんなが笑顔になるためにどうしたらよいか考えよう。

振り返り一覧表(全児童分)	参加者アンケート・手紙	認知症	耳・目	自分達で見直す
・	写真等	ルール説明	得点	時間
・		得点	掲示物	
・		次時の課題		

次時の課題

- ・ 認知症の高齢者とも仲良くしたい。→ 専門家に聞く。
- ・ 4年1組の遊びを見直したい。→ みんなが楽しく一人一人を大切に、その人に合ったもの……

## 9 本時における指導と評価の実際

### (1) 「発言・行動」の見取り

○収集した情報を整理・分析する話し合いからの評価

#### <グループでの活動場面>

思考ツールを活用し、グループ内で思考を深めている様子を、発言内容、表情、態度等から見取り、評価する。

教師は、目的・ねらいを明確にし、児童相互の対話的学びから深い学びにつながるようグループを回り、発問を投げかけながら、一人一人の発言と行動を見取り、評価していくようにする。  
「主体的に学習に取り組む態度」では、特に、「前のめり」の姿勢の児童や、質問をしている児童、変容が見られる児童を評価していく。

「自分達ももっと認知症について知らないといけない。」  
「説明を書き直す方が先だよ。」  
「でも、相手のことを知らないとうまく伝えられない。」

「耳の聞こえない人の他にも、目が不自由な人がいた。両方の人に分かるルールってどうすればいいかな。」

「意見をもっと合わせて、上に上げよう。」  
「この『やさしく伝える』と『丁寧に説明』って目的は同じじゃないかな。」

#### <全体での協議の場面>

「表情から気持ちが分かる方法はないかな？」  
「所員さんにインタビューしよう。」

「掲示の字の大きさをそろえよう。」  
「話すスピードを練習しよう。」

### (2) ワークシート（思考ツール）の見取り

思考ツールと付箋から、どの考えを比較・検討し、関係付けていったのかを見取り、評価する。

### (3) 振り返りカードからの見取り

振り返りカードより、本時の思考過程や変容を見取り、評価する。

〈振り返りカード〉

- ・ あのおじいちゃんの笑顔のために、自分ができることをしていきたい。
- ・ ルールは、一人一人の気持ちになって考えることが大切だと分かった。
- ・ 次にやることははっきりと分かった。みんなで話すと言話がどんどん進む。
- ・ 今日は意見が言えた。みんなの役に立てた。次もがんばりたい。

### (4) 評価に基づく改善のポイント

高齢者や障がいのある人々と繰り返し交流する（関わる）ことを通して、交流した人々の考えや思いに触れ、みんなが幸せに暮らすことができる取組や考え方について理解を深めていけるようにする。そのために、思考ツールを活用して考えを比較、検討したり、関係付けたりしながら児童の考えや活動を明確にしていく。さらに、振り返りカードにより、児童の思考過程や変容を見取りながら、深い学びにつなげるようにする。



**<事例2> 「地域の梅林公園の環境を守り続ける人々と地域社会」を探究課題とし、自分の住んでいる町に愛着をもち、町の一員として自分たちができることについて考えることをねらった事例  
第3学年 マイタウン大袋「町のすてきって？」 指導要領との関わり：地域や学校の特色に応じた課題**

- (1) 本時の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等  
公園の問題点を解決するにはどうしたらよいか、友達の意見を聞きながら自分たちにできそうなことを話し合うために、前時までに児童一人一人が書いた解決策等の考えを一覧としてプリントにまとめ、それをあらかじめ読ませておき、話し合いを活性化できるようにした。
- (2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等  
問題解決のために、自分たちができるところを具体的に考え、地域の人とも力を合わせ、一緒に取り組もうとしている点を評価するようにした。

**1 単元名** マイタウン大袋「町のすてきって？」(第3学年 50時間)

**2 単元目標**

自分たちの町のよさを見付けたり、地域の人々の話を聞いたりして、自分たちの町をよりよくするための活動を通して、町の環境を守ることに関わっている人々の思いに気づき、仲間と協力して知恵を出し合い、問題の解決方法を考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

**3 児童の実態** (省略)

**4 教材について**

本教材は、「自分の住んでいる町」そのものが教材である。これまでの経験も生かしながら、「自分の町の問題は何か」、「問題解決に必要なことは何か」、「自分にできることは何か」、「友達や他の人と協力すればできそうなことは何か」などを考え、活動していく。はじめに、1、2年生の時に生活科の学習で訪れ、遊んだことのある公園を取り上げ、公園を維持・管理する市民ボランティアと繰り返し関わっていくうちに、様々な問題点があることに気付いていく。子供たちにとっては切実感が増し、「公園がただの遊ぶだけの公園ではなくなった」という意識になる。さらに、子供たちは公園に係る問題解決を基に、その活動を町へと広げていく。単元のスタート時に担任が子供たちへ「自分たちが住んでいる町のすてきって何かな？」と問いかけたこと(「町のすてきとは」という概念)について、体験(様々な交流や調査等)と表現(振り返り)を繰り返す中で、再構築させていきたい。そして、町のすてき探しをする活動を通して、町に愛着をもたせ、自分たちの大好きな町は自分たちでよくしていこうという態度を育てたい。地域の人との関わり合いを大切に、人と人が助け合って生きていることを実感させ、困難をみんなで乗り越えていく経験をさせたい。

**5 単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 町の環境を守るための取組や人々の思いに触れ、町の一員としてできることを実践することが、持続可能なものになることを理解している。 ② 町の環境を守ることの大切さに気づき、自分が興味をもったテーマを追究していく中で、「町のすてきってこんなこと」という自分なりの概念を構築している。 ③ 町の環境の保全や、よりよい環境の創造のための取組について調べたことを、資料の大事なところを読み取ってまとめる方法が分かっている。	① 町探検での共通体験をもとに、地域の人たちの思いや願いから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 町の環境を守るために必要な情報を、目的や状況に応じて選択して収集している。 ③ 町の問題を解決するために収集・蓄積した情報を基に考えをまとめる中で、試行錯誤を繰り返しながら、解決策を探っている。 ④ 目的意識を明確にし、伝える相手を意識して自分の考えをまとめ、自らの活動について深く考えている。	① 自分たちの町に愛着をもち、大好きな町を守っている。 ② 町や人との関わり、他の児童との協働的な学習を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れながらよりよい解決方法を見いだそうとしている。 ③ 課題解決の状況を振り返り、問題に直面した際に、身の回りの人たちに話を聞くなどして、あきらめずに様々な作戦を立て、継続的に取り組もうとしている。

**6 単元の指導計画と評価計画** (省略)

## 7 本時の学習指導（本時 22/50時）

### (1) 目標

公園の問題を解決するための話し合い活動を通して、様々な条件を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり友達のと比べたりして、実現できそうな活動を考えている。

### (2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）	準備	時間
1 公園の問題点について話し合う。	・公園でのボランティア活動や調査活動によって見つけた問題点を話し合う。		3
2 本時のめあてを知る。	<p>どうすれば公園のボランティアのみなさんのこまりごとが解決できるかをみんなで考えよう</p> <p>P284 指導計画作成の留意事項(2)</p>		2
3 問題解決の見通しをもち、具体的な作戦を話し合いながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を使って話し合いをすることを確認する。</li> <li>事前に、クラス全員の考えが書いてある資料を読ませておき、話し合いを活性化できるようにする。</li> <li>話し合いに参加できない児童には、事前に書いた自分の考えを読ませ、自信をもって意見を言えるように声をかける。（「CをB」にする手立て）</li> <li>教師は、児童一人一人がどんな思いでどんな考えをもっているかをしっかり把握しておく。</li> <li>板書で座標軸（視点…実現可能か、クラスでできるか、地域の人と一緒にできるか）を使い、児童の意見を分かりやすくまとめられるようにする。</li> <li>児童が出した作戦について、賛成、反対意見だけでなく、さらによくするための方法や、こういう場合はどうするかなど、多面的・多角的に意見を出し合えるようにする。</li> <li>座標軸で「できない」のところにある活動を、どうしたら「できる」の方にもってこられるかを考えるようにする。</li> <li>自分たちだけでなく、地域の人と一緒に取り組めるように、前もって協力してもらえそうな人を探しておく。</li> </ul>	学級全員の考えが書いてある資料	30
<p>学級全員の考えが書いてあるプリントを事前に配付し、自分と同じ考え、似ている考え、質問したいことなど、自分なりに色分けをしたり、線を引いたりして、話し合いに臨めるように工夫する。 【9指導と評価の実際(3)】</p> <p>自分たちだけでなく、地域や役所等の協力を得て実現させようと考えている児童が見受けられたことからAとする。 【9指導と評価の実際(3)】</p>		児童の考えた作戦が、自分たちで実現可能なのかそうでないのかを具体的に考えながら意見を出せるようにする。 板書で座標軸にまとめて、空想の世界の会話にならないように工夫する。 【8板書計画】	
4 本時の学習のまとめと振り返りをする。	<p>○様々な条件を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり、友達のと比べたりして、実現できそうな活動を考えている。（発言、カード）</p> <p>・自分の活動を振り返り、新たな課題を設定できるようにする。</p>	振り返りカード	10

## 8 板書計画

**マイタウン大袋**

めあて どうすれば公園のボランティアのみなさんのこまりごとが解決できるだろうか？

**ボランティアのみなさんがこまっていること**

- ・あとつぎがない。
- ・うめの木を買うお金がない。
- ・草とりがたいへん。
- ・うめの木がかれている。
- ・犬のふんがあつてこまる。

## 9 本単元及び本時における指導と評価の実際

### (1) 課題設定場面 評価1

#### ○振り返りカードからの評価



ボランティアのみなさんが困っていることを知り、みんなで協力して問題に取り組もうとしている点を評価する。

〈振り返りカード〉

- ・ボランティアさんに少しは楽になってもらいたい。
- ・このまま任せないで、助けたい。
- ・ぼくが後継ぎになる。

ボランティアのみなさんへの感謝の気持ちをもつことにとどまらず、「このまま任せていてよいのか」と問いかけ、対話を通して自分たちにも何かできないかと、課題意識を引き出し、評価していくようにする。

### (2) 情報収集場面 評価2

#### ○人とのかかわりを重視した情報収集の評価



〈児童のつぶやき〉  
「お年寄りがやっていて大変そうだな。」  
「私もボランティアに参加してみたいな。」



「この活動を引き継いでくれる人がいないんだ。」  
「梅の木が枯れてきていて、このままじゃ梅まつりができなくなるかも。」

町のすてき探しや、ボランティアのみなさんへのインタビュー活動を通して思考を深めている様子を、目線、表情、態度、つぶやきなどから見取り、評価する。

### (3) 整理・分析場面 評価3 ※本時における指導と評価

#### ○収集した情報を整理・分析する話し合いからの評価

話し合いでの発言、振り返りカードなどを重ね合わせ、思考の変容を評価する。友達のことをさらによくしようとする発言や、自分たちには何ができるかを考え、それが実現可能か、そうでなければ、どうすれば実現可能なのかを考えようとしていることなどを評価する。

マイタウン大ぶくろ

～すてきな暮らし、すてきな人、すてきな場所～

のあて ばい林公園のボランティアさんが困っていることをみんなに伝えよう

下村 ・お天竺を育てたい いろいろなお菓子を 作る	中野高志 ・ボクサーは好きなんです ・お城の歴史が大好き ・歩いて歩くのが好き ・お茶を淹れる	堀川 ・お母様が「お母さん」 ・お父さんが「お父さん」 ・おじいさんが「おじいさん」 ・おばあさんが「おばあさん」	下村 ・お天竺を育てたい いろいろなお菓子を 作る	下村 ・お天竺を育てたい いろいろなお菓子を 作る
本郷 ・ボクサーが好き ・お城の歴史が大好き ・歩いて歩くのが好き ・お茶を淹れる	中野高志 ・ボクサーは好きなんです ・お城の歴史が大好き ・歩いて歩くのが好き ・お茶を淹れる	堀川 ・お母様が「お母さん」 ・お父さんが「お父さん」 ・おじいさんが「おじいさん」 ・おばあさんが「おばあさん」	下村 ・お天竺を育てたい いろいろなお菓子を 作る	下村 ・お天竺を育てたい いろいろなお菓子を 作る

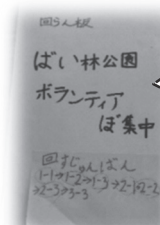


公園のことを、みんなにも知ってもらいたいので、回覧板を作ろうと思うのですが、何を書いたらみんなボランティアに参加してくれると思いますか。

### (4) まとめ・表現場面 評価4

#### ○自分たちが考えた作戦を実行し、町の一員として力になるようにすることの評価

今まで体験したこと、考えてきたことを重ね合わせ、公園の問題について「力になれた」という体験をすることで自信をもち、さらに町全体にも目を向け、他の場所もよくしていきたいという気持ちなどを評価する。



公園の問題点を伝え、ボランティアを増やすために、ポスターを作ったり、回覧板を回したりする作戦



朝の挨拶運動をしながら、梅林公園の問題点を知ってもらう作戦



市役所の人と協力して公園にポスターを貼る作戦

### (5) 評価に基づく改善のポイント

公園のボランティアさんが困っていることについて、町の一員として自分には何ができるか、実現可能かそうでないかを具体的に考えられているか。また、児童の「どうにかしたい」という気持ちを大切に、地域、役所等へいつでも協力してもらえる体制を整えておくなどして、児童の思いが途切れることなく、話し合いが進められるようにする。

＜事例3＞ 「幼稚園児との交流と幼稚園児に関わる人々の思いや願い」を探究課題とし、幼稚園児との交流を通して楽しさや難しさに気づき、人との関わり方を学び、今後の生き方に生かすことをねらった事例  
第6学年 「出会い ふれ合い 幼稚園」 指導要領との関わり：児童の興味・関心に基づく課題

- (1) 本時の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等  
第1回の交流体験の様子を動画で振り返り、よかった点や改善点を考える。そして、第2回交流体験への意欲を高め、さらによりよい交流ができるように意見を出し合い、遊び方を工夫したり、一人一役となるような役割分担を考えたりすることができるようにする。
- (2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等  
交流体験の振り返りから、課題を解決するために、遊び方の工夫を考えたり、会を進行するために必要なことや用意する物などを考えたりしている点を評価するようにする。

1 単元名 出会い ふれ合い 幼稚園 (第6学年 35時間)

2 単元目標

幼稚園の見学や繰り返し幼稚園児と交流する活動を通して、異年齢児への接し方を理解し、幼稚園児に合った遊びや、幼稚園児の思いや願いをかなえる交流会について主体的に考え、学んだことを自らの生活に生かそうとする。

3 児童の実態

児童は生活科で、1、2年生の交流会、学校探検、町探検を学習してきている。また、総合的な学習の時間において、地域の高齢者や福祉施設の利用者との交流を行ってきた。本校は隣接している市立幼稚園との交流も盛んに行い、幼小連携に取り組んでいる。本単元では、幼稚園児を対象にした異年齢集団との交流を通し、人と触れ合うことの素晴らしさや難しさを実感し、人との関わり方を学び、今後に生かせるようにしたい。

4 教材について

本校には、市立幼稚園が隣接している。また、学区内には、私立保育園、福祉施設などもあり、様々な施設と連携して学習に取り組むことができる。隣接している市立幼稚園とは、6年生との交流給食や運動会、1年生の授業の様子を参観するなどの交流を図っている。さらに、市立幼稚園出身の児童も多く、毎年6年生との交流会を実施している。

そこで、本単元では、幼稚園から交流給食を提案されたことを契機に「給食だけでなく、一緒に遊びたい。」という思いを教材化していく。幼稚園児との交流会を通して、「どのような遊びがよいか。」「時間配分はどうか。」「どんな伝え方をしたらよいか。」等を考え、幼稚園児の特性や接し方を学んでいく。そして、交流会での経験を生かし、幼稚園児の思いや特性を理解し、さらによりよい交流会にするために、幼稚園児に関わる人々にインタビューをしたり、他の児童と協働したりしながら学習を深めていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 異年齢児との関わり方を理解している。	① 幼稚園見学や交流体験から、発見したことや疑問に感じたことを基に、自らの課題を設定している。	① 幼稚園交流体験から、幼稚園児との関わり方で自分にできることを実行しようとしている。
② 課題を追究していく中で、幼稚園児に関わる人々の思いや願いを理解している。	② 交流会やインタビューを通して情報を収集し、よりよい交流を考えている。	② 進んで幼稚園児に関わろうとしたり、友達と協働して交流活動の準備をしたりしている。
③ 幼稚園児の実態や思いをくみ取り、よりよい遊びをつくり、幼稚園児にとって楽しい交流会を行っている。	③ よりよい交流会にするために、収集した情報や体験したことを基に話し合い、考えをまとめている。	③ 幼稚園児や幼稚園児に関わる人々に積極的に関わりながら、自分の課題を粘り強く解決しようとしている。
	④ 交流会やインタビューを通して考えたことや分かったことを自分なりの方法で表現している。	

6 単元の指導計画・評価計画 (省略)

総合的な  
学習の時間

## 7 本時の学習指導（本時12／35時）

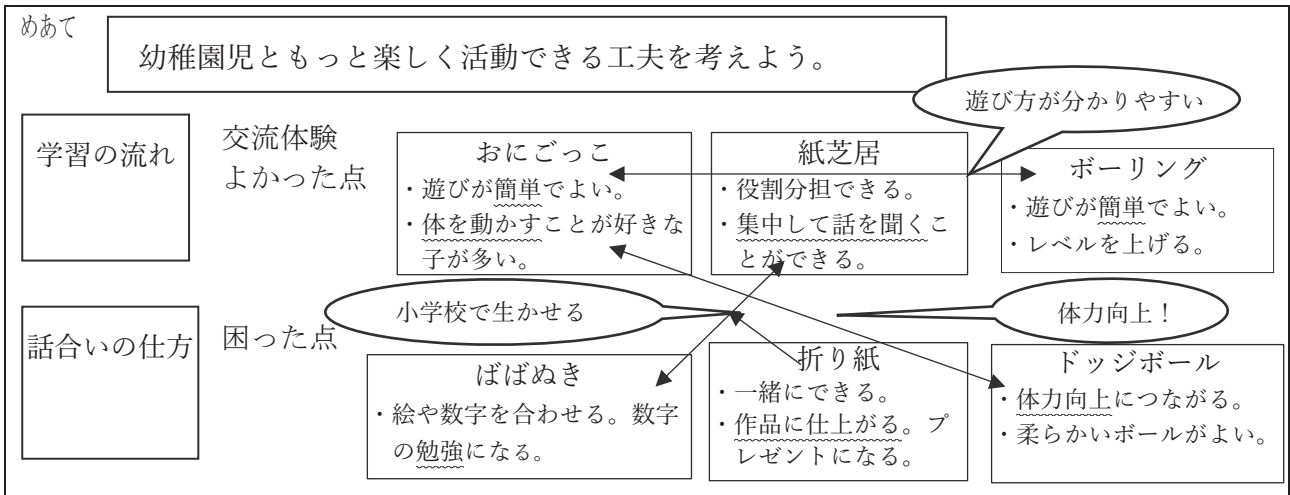
### (1) 目標

幼稚園児が楽しむことのできる交流会について話し合う活動を通して、自分の主張を明確にしたり、友達の主張のよさを認めたりしながら、よりよい交流の仕方を考えている。

### (2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）
1 前時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを使い、第1回交流体験の動画を視聴する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">楽しかったことや困ったことなどが想起できるように、動画で確認する。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴後、交流体験でよかった点や困った点を発表し、共感できるようにする。</li> </ul>
2 本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">幼稚園児ともっと楽しく活動できる工夫を考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;">P284 指導計画作成の留意事項(1)</div>
3 学習の流れを知り見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを掲示したり、話し合いの仕方や視点を説明したりして、どの児童も活動の見通しをもち、主体的に活動できるようにする。</li> <li>・前時の交流体験で困った点や難しかった点について振り返り、それらをどう改善していくか考えられるようにする。</li> </ul>
4 活動内容を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角ロジック（自分の主張、理由、根拠）を使い、前回の交流体験を生かして、園児の思いに合う遊びを考えることができるようにする。</li> <li>・室内遊び、外遊びを考える。なぜ、その遊びを選んだのかその理由や根拠を考えることで、よりよい遊びを選定できるようにする。</li> <li>・個人の考えをグループで共有し、理由や根拠に着目して園児に合った活動を考えることができるように話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">思考ツールを使って、幼稚園児の興味・関心を比較したり、分類したりして改善点とともに遊びを考えている姿を評価するようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの根拠がまとまらない児童には、前回の交流会での様子を確認することができるように、意図的に話し合いの場を設定する。（「CをB」にする手立て）</li> </ul>
国語科や特別活動の学習を生かし、各グループで司会を立てて班の考えをまとめられるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">国語科や社会科等の学習を生かし、根拠を基に自分たちの考えを発表できるようにする。</div>
5 グループでの話し合いを全体に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いを全体に発表する際、前時の交流体験の反省点を踏まえて考えたことや座標軸を使って考えた理由も発表するようにする。</li> <li>・各グループの理由や根拠の共通点を分類・整理しながら板書し、児童の思考の一助とする。</li> </ul>
6 発表を聞いて、自分たちの活動内容について再考する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの考えのよい所を自分たちのグループでも採用できるかどうか考えるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">他のグループの根拠と比較して、自分たちの活動内容をさらによくしていこうと考えている姿を評価するようにする。</div>
7 本時の学習のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてについて、どんな視点で考えたか振り返りながらまとめられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・幼稚園児の好きな遊び ・頭や体を使う遊び ・やさしくて楽しい遊び ・時間配分</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園児の興味・関心やこれまでの経験を基に話し合い、さらによりよい交流の仕方を考えている。（ワークシート、観察、発言）</li> <li>・幼稚園児の興味・関心や発達段階、前回の交流体験の反省を考慮して、次回の交流計画を考えていることを称賛し、まとめられるようにする。</li> </ul>

## 8 板書計画

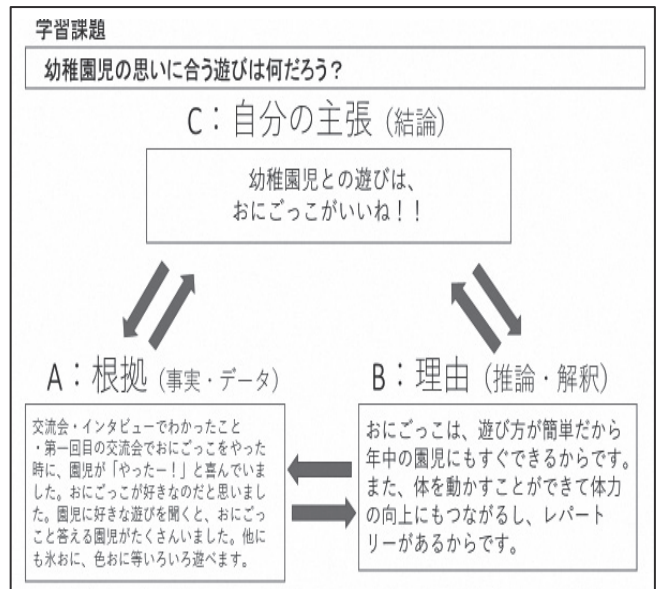


## 9 本時における指導と評価の実際

### (1) 三角ロジックの活用

児童の主張（結論）を裏付けるための理由（推論・解釈）や、根拠（事実・データ）について、ワークシートを用いて児童の思考を視覚化したり、整理したりすることができるようにする。また、机間指導を通して、児童の主張に対し、「どうしてそう考えたのか。」「どこからそのように考えたのか。」と問い返すことで自分の主張がより深まり、相手が納得する主張となる。

三角ロジックの活用で言語活動の充実を図るとともに児童の論理的思考力を高め、学力向上につなげていくことが期待できる。



(2) 児童が幼稚園児の発達の段階や思いを理解し、活動計画を立てることができるようにする。幼稚園児との交流の楽しさや難しさを話し合い、共感したり、友だちとの対話からヒントを得たりできるように、教師は調整役となることを心がける。また、他教科との関連を図り、話し合いでは、司会等を輪番制にし、どの児童にも経験を積むことができるようにする。

前回はトランプで神経衰弱をしたけれど、全部終わるまでに時間がかかったね。



ボーリングは、遊び方が簡単だし、全部倒すととても喜んでたよ。レベルを高くしてみる？



前回の交流会を振り返り、幼稚園児の実態や時間配分などを考え、自分の主張について理由や根拠を明確にして話し合っていることを評価する。

### (3) 評価に基づく改善のポイント

教師は、児童が思考しやすいように、また、特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への困り感を減らすために、ICTの活用、活動の流れや話し合い仕方の提示、ワークシートの工夫をしていく必要がある。ワークシートに関しては、児童の思考を明確にするため、また、発表する際の手立てにもなるように工夫をしていく。単元開始前、終了の際に、学年間でワークシートの活用方法や修正等を話し合い、評価につなげていくことが大切である。